

県工技センター

3Dプリンター導入

来月から 耐熱樹脂対応タイプ

徳島県立工業技術センター(徳島市)は3次元データを基に、樹脂を積み重ねて精密な立体物を作る「3Dプリンター」を導入した。耐熱樹脂に対応し、四国の公設試験研究機関では初めてのタイプ。10月1日から利用を受け付け、10月24、25の両日には装置のデモンストレーションを行う。

導入した3Dプリンターは米国製。汎用性の高いABS樹脂のほか、強度・高耐熱のポリカーボネートと、難燃性のポリエーテルイミドの3種類の樹脂に対応する。造形できる立体物は最大で幅35.5センチ、奥行き25.4センチ、高さ25.4センチ。積み重ねる樹脂の厚みは0.1

になった。工技センターは県内中小企業を中心に、LED関連製品などの開発に役立ててもらおうと考えて。機器利用費は1時間2千円(材料費込み)。四国経済産業局が「地

域新産業創出基盤強化事業」で購入し、工技センターに無償貸与した。購入価格は非公表。デモンストレーションは10月24、25の両日に「徳島ビジネスチャレンジ」の担当者が「3Dプリンターの技術情報や最新動向について」と題して講演する。参加無料。機器利用やセミナーの申し込み、問い合わせは県工技センター(電話088(635)7900)。(湯浅翔子)



県立工業技術センターが導入した耐熱樹脂対応の3Dプリンター(徳島市)

27ミリの間に調整でき、精密な立体物を作ることができる。ゴムなど融点が低い素材を成型する金型づくりや、熱源の近くで用いる機械部品の試作には多大な費用が必要だった。耐熱樹脂が使用できる3Dプリンターによって、低コストでの製作が可能に